

# 第 53 回 未来医療セミナー

## 遺伝子改変マウスによる樹状細胞機能制御機構の解明

理化学研究所 免疫・アレルギー科学総合研究センター  
生体防御研究チーム チームリーダー

改正 恒康

樹状細胞は、自然免疫と獲得免疫の連関に必須の役割を果たす。樹状細胞は、不均一な細胞集団であり、各サブセットは、特有の機能を発揮する。形質細胞様樹状細胞 (pDC) は、TLR7, TLR9 を介して核酸を認識し、大量の I 型インターフェロンを産生するという特性を持ち、ウイルス免疫や自己免疫疾患病態に関与する。また、2 本鎖 RNA を認識する TLR3 を発現し、その刺激で細胞障害性 T 細胞反応を増強 (クロスプレゼンテーション) する特性を持つ樹状細胞サブセットも存在し、腫瘍免疫やウイルス免疫を担う。これらの機構は、ヒト、マウスでよく保存されており、マウスにおける知見は、臨床においても非常に重要と考えられる。本セミナーでは、樹状細胞機能制御に関して、種々の遺伝子改変マウスを用いた我々のこれまでの知見、最近の取り組みを紹介したい。



主催: 未来医療交流会

後援: 大阪大学医学部附属病院未来医療センター  
文部科学省橋渡し研究支援推進プログラム  
大阪大学「TR 実践のための戦略的高機能拠点整備」

連絡先: 未来医療交流会 (大阪大学医学部附属病院未来医療センター内)  
Tel: 06-6879-6557, 6551, Fax: 06-6879-6538  
E-mail: koryukai@hp-mctr.med.osaka-u.ac.jp  
<http://www.hp-mctr.med.osaka-u.ac.jp/>

2010.4.23

18:00~19:00

大阪大学医学部附属病院 14F  
会議室

MTR